

子育て世代包括支援 ～“妊娠・出産・子育て” まるっと応援～

1. 子育てをとりまく問題

家族形態	核家族化・ひとり親家庭の増加・共働き家庭の増加
人とのつながり	地域コミュニティの希薄化・アウェイ育児・ネット、SNSによる情報過多
育児負担	待機児童の増加・ワンオペ育児・経済負担の増大

2. その解決をめざして・・・

法改正により市町村は、**子育て世代包括支援センター**を設置し、“**妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援を提供する体制づくり**”を図る必要（努力義務）がある。


しかし

やり方はさまざま・・・

3. ヒントを探して先進地視察へ

Q1 千葉県浦安市
こどもプロジェクト事業
★子育てケアプラン
★子育て支援ギフト
★日帰り産後ケア
(高級ホテル!!)

顔を合わせる機会を**無理やり**つくり(面談の機会を**複数回**設定)、核家族率の高い子育て世代を重点的に支援!!




子育て支援ギフト・ハウチャー券

Q2 千葉県松戸市
3箇所の保健福祉センター内に母子保健型の「**親子すこやかセンター**」を設置し、専任保健師・社会福祉士・助産師が連携してきめ細かな支援を行っている

- ◆ 一人ひとりを支援
- ◆ ハイリスク者を支援
- ◆ 高い情報発信力

共働き子育てしやすい街
ランキング2017**全国1位!!**




母子保健に歴史あり(S47)
死産をゼロに!


松戸市9代目市長 松本 清

Q3 新潟県長岡市
2市7町2村が合併した広大な面積(891.06km²)

市内13箇所の「子育ての駅」を中心に、子育て世代包括支援センターを**24箇所設置!!**
(人を配置し、顔の見える支援)



長岡市 大矢子ども家庭課長



屋根付き公園「てくてく」
絵本館「ちびっこ広場」

地域による支援内容に差は**ありません!**

課題も・・・ **子育て世帯の取り合い、職員のマンパワー・スキル不足、関係機関との連携が困難、周囲の理解不足**

4. 目指すべき姿

相談窓口の集約	「まずはセンターに相談に行こう!」と認知されるような住民にわかりやすい子育て相談のワンストップ窓口を設置することにより、だら回しはしない!! させない!!
顔の見える支援	「センターに行けば、〇〇さんがいてくれる」という安心感! 医療機関等関係機関間で情報を共有し、専門職員や担当制の導入で顔の見える関係を構築することで、きめ細かな支援が可能に!
子育て地域資源の活用	各市町村がこれまで培ってきた“子育て地域資源”を活用し、柔軟な運営で創意工夫をしていけば、地域の 弱点 は 長所 になるはず!

“みんな違って、みんないい” 自らの地域の特性と支援すべきターゲットを明確にすることで、それぞれの“**切れ目のない支援**”が見えてきます。
子育て世代包括支援を“**義務**”にとらえず、わがまちの子育て支援をアピールする絶好の“**好機**”にとらえ、前向きに取り組んでいきましょう!!